

嬉野市文化振興に関するアンケート調査から見える課題

1. 市民の文化意識

主なデータ

【問7】 文化的なまちのイメージ：「伝統工芸・建物の継承」45.4%、「伝承芸能の継承」42.7%

【問8】 嬉野市の評価（文化的なまちかどうか）：「どちらともいえない」35.1%が最多、肯定的評価は30.5%

【問9】 課題認識：「文化施設が少ない」44.8%、「関心を持つ人が少ない」41.3%

<課題>

市民は伝統文化の重要性を認識しているが、現状の嬉野市を文化的とは評価していない。

2. 参加の実態と障壁

主なデータ

【問12】 活動参加率：「特にしていない」75.2%

【問10】 機会の認識：「あまりない」50.8% + 「まったくない」14.9% = 65.7%

【問13】 不参加理由：「時間がない」35.2%、「都合の合う時間帯がない」28.6%

【問16】 潜在的意欲：「機会があれば参加したい」54.6%、「機会があれば関わってもよい」50.0%

<課題>

時間的制約が最大の障壁。しかし半数以上は「機会があれば参加したい」と回答しており、潜在需要は非常に大きい。参加しやすい時間帯の設定と機会創出が必要。

3. 文化財・伝承芸能の認知

主なデータ

【問21】 文化財認知度：塩田津 80.9%、大チャノキ 74.4%は高いが、8項目で未認知率6割超

【問22】 伝承芸能体験：「地域の祭りで見たい」41.6%、「学校等で体験」32.4%

【問23】 課題認識：「後継者不足に不安」35.5%

【問24】 伝承芸能の継承：「ある程度重要だと思う」が61.1%、「とても重要だと思う」が29.0%

<課題>

認知度に大きな格差が存在。有名な文化財以外の浸透が課題。後継者不足への危機感は市民間で共有されている。

4. 情報発信の課題

主なデータ

Q41 要望：情報発信強化、市民参加支援に関する意見が多くある

具体的要望：イベントアプリ開発、SNS 活用、早期告知、観光客向け情報提供

<課題>

情報の「質」と「タイミング」両面の改善が急務。デジタルツールへの期待が高く、特に若年層への訴求には SNS・アプリ活用が不可欠。